

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田 ②宮崎 ③鈴木（恵）	実務経験有 ①清流苑で介護福祉士として勤務 ③寿泉堂総合病院で看護師として勤務
授業の回数 45	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 1年 通年	必修
[授業の目的・ねらい] 介護全般の概念を理解し、介護福祉の基本原則を認識する。 その上で、対人援助の方法と技術を理解する。			
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士の役割と機能、介護福祉の概念、介護の基本原則を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護の理念、定義、及び介護福祉士を取り巻く状況を理解する。 ・ 日本だけでなく諸外国の場合も理解する。 ・ 介護援助の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<前期> 1～4 介護福祉士を取り巻く状況 5～12 介護福祉の歴史 13～17 介護福祉の基本理念			
<後期> 18～20 介護福祉士の役割と機能 21～25 介護福祉士の倫理 26～30 介護福祉における自立に向けた介護 31～35 ICFの考え方 36～40 自立支援とリハビリテーション 41～45 自立支援と介護予防 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規出版 参考『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』メヂカルフレンド社、 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 出席状況、試験（60点以上）、授業態度による 総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田 ②宮崎 ③鈴木(恵)	実務経験有 ①清流苑で介護福祉士として勤務③寿泉堂総合病院で看護師として勤務
授業の回数 45	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 2年 通年	必修
[授業の目的・ねらい] 介護全般の概念を理解し、介護福祉の基本原則を認識する。 その上で、対人援助の方法と技術を理解する。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉士の役割と機能、介護福祉の概念、介護の基本原則を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・ 介護の理念、定義、及び介護福祉士を取り巻く状況を理解する。 ・ 日本だけでなく諸外国の場合も理解する。 ・ 介護援助の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <前期> 1 要介護者の生活管理の課題 2～4 事例検討 5～8 介護福祉の倫理、介護職に求められる倫理 9～10 介護の倫理的問題 11 介護福祉の活動の場 12, 13 在宅における介護福祉 14, 15 介護老人福祉施設における介護福祉 16, 17 障害者福祉施設における介護福祉 18, 19 障害児福祉施設における介護福祉 <後期> 20, 21 介護老人保健施設における介護福祉 22, 23 介護療養型医療施設における介護福祉 24, 25 介護サービス提供のしくみと他職種連携 26, 27 地域連携 28, 29 介護における安全の意義 30, 31 介護領域におけるリスクマネジメント 32, 33 在宅における安全対策 34, 35 施設における安全対策 36, 37 感染症の予防と管理 38, 39 介護従事者の健康と安全 40 介護従事者の健康問題 41 身体の健康管理 42 心の健康管理 43 労働安全対策 44, 45 介護福祉士に関する諸課題			
[使用テキスト・参考文献] 『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規出版 参考『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』メヂカルフレンド社、『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 出席状況、試験(60点以上)、授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田②加藤	実務経験有 ①老健清流苑で介護福祉士として勤務②特養えんじゅで介護士として勤務																
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年 通年	必修																
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開、介護計画の立案をし、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・ 介護過程の基礎を理解し、ICFが示した「活動」「参加」、促進因子、障害因子といった考え方を介護過程にどう取り入れるかを学ぶ。 ・ 介護過程の中心であるアセスメントの意味を理解し、質の高い情報収集の方法について事例より学ぶ。 ・ 介護計画から実施、記録、評価に至るまでの展開について事例検討を取り入れ、その中で介護計画とケアプランの関係について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護過程の概要を知り、課題に対する原因のを見つけ方を理解したうえで、介護過程の段階と、それぞれのような関連があるのか、また、介護実践では介護過程がどのような意義をもっているのか理解することができる。 ・ 介護福祉士の仕事の特徴や介護過程における要望とニーズの違いを学び、ニーズをとらえる7つの視点について理解することができる。 ・ 「質の高い情報の収集」「得られた情報からニーズを整理」「優先順位をつけてニーズを整理する」という介護過程の展開について理解することができる。 ・ 介護計画に含む内容を把握し、事例検討により実際の介護計画を立案することで、介護職員が作成する「介護計画」と介護支援専門員が作成する「ケアプラン」の関係について理解することができる。 ・ 介護過程の実践的展開について理解することができる。 ・ 介護計画を実施するときの注意点と、介護記録の意味、情報の扱い方を理解することができる。</p>																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>前期</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">1～2</td> <td style="width: 50%;">介護過程とは何か</td> <td style="width: 12.5%;">3</td> <td style="width: 12.5%;">介護過程の構成要素</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td>介護実践における介護過程の意義</td> <td>6～7</td> <td>介護福祉の役割</td> </tr> <tr> <td>8～9</td> <td>生活上のニーズ</td> <td>10～11</td> <td>ニーズをめぐる議論</td> </tr> <tr> <td>12～13</td> <td>生活上のニーズをとらえる7つの視点</td> <td>14～15</td> <td>ニーズをとらえる7つの視点とICFの関係</td> </tr> </table> <p>後期</p> <p>16 アセスメントとは 17, 18, 19 情報収集 20, 21, 23 情報の判断 24, 25 ニーズ（課題）の優先順位の検討 26, 27 〈事例検討1〉 Bさんの思いを知るための情報収集手段 28, 29 〈事例検討2〉 施設実習の事例「情報の伝え方・受け方」 30 〈事例検討3〉 大腿骨骨折による入院後、施設に戻ってきた際のアセスメント</p>				1～2	介護過程とは何か	3	介護過程の構成要素	4～5	介護実践における介護過程の意義	6～7	介護福祉の役割	8～9	生活上のニーズ	10～11	ニーズをめぐる議論	12～13	生活上のニーズをとらえる7つの視点	14～15	ニーズをとらえる7つの視点とICFの関係
1～2	介護過程とは何か	3	介護過程の構成要素																
4～5	介護実践における介護過程の意義	6～7	介護福祉の役割																
8～9	生活上のニーズ	10～11	ニーズをめぐる議論																
12～13	生活上のニーズをとらえる7つの視点	14～15	ニーズをとらえる7つの視点とICFの関係																
<p>[使用テキスト・参考文献] 『介護過程』中央法規出版、 参考『介護過程』メヂカルフレンド社 介護福祉士養成テキスト 介護過程の展開 建帛社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録 授業態度による総合評価</p>																	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田②加藤	実務経験有 ①老健清流苑で介護福祉士として勤務② 特養えんじゅで介護福祉士として勤務
授業の回数 45	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開、介護計画の立案をし、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の基礎を理解し、ICFが示した「活動」「参加」、促進因子、阻害因子といった考え方を介護過程にどう取り入れるかを学ぶ。 ・ 介護過程の中心であるアセスメントの意味を理解し、質の高い情報収集の方法について事例より学ぶ。 ・ 介護計画から実施、記録、評価に至るまでの展開について事例検討を取り入れ、その中で介護計画とケアプランの関係について学ぶ。 <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の概要を知り、課題に対する原因のを見つけ方を理解したうえで、介護過程の段階と、それぞれのような関連があるのか、また、介護実践では介護過程がどのような意義をもっているのか理解することができる。 ・ 介護福祉士の仕事の特徴や介護過程における要望とニーズの違いを学び、ニーズをとらえる7つの視点について理解することができる。 ・ 「質の高い情報の収集」「得られた情報からニーズを整理」「優先順位をつけてニーズを整理する」という介護過程の展開について理解することができる。 ・ 介護計画に含む内容を把握し、事例検討により実際の介護計画を立案することで、介護職員が作成する「介護計画」と介護支援専門員が作成する「ケアプラン」の関係について理解することができる。 ・ 介護過程の実践的展開について理解することができる。 ・ 介護計画を実施するときの注意点と、介護記録の意味、情報の扱い方を理解することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>前期 1, 2 介護計画の意義 3, 4 介護保険制度における介護計画の位置づけ 5, 6 介護計画に含まれるべき要素 7, 8 介護計画の例 9, 10 〈事例検討1〉入所直後、環境の変化にとまどう認知症高齢者への支援事例 11, 12 〈事例検討2〉視覚障害と認知症状のある高齢者への支援事例 13, 14 〈事例検討3〉健康管理や歩行訓練に消極的な高齢者への支援事例 後期 15~17 介護計画の実施 18, 19 介護記録の意義 20, 21 情報の共有と個人情報保護 22, 23 介護過程の評価 24, 25 〈事例検討1〉食欲低下、閉じこもりのある高齢者への支援事例 26, 27 〈事例検討2〉徘徊や入浴拒否がある認知症高齢者への支援事例 28~30 〈事例検討3〉一人暮らしを続ける高齢者のケアマネジメント 31 介護過程の展開時に必要な姿勢 32~34 認知症利用者の介護過程の例 35, 36 〈事例検討1：演習〉在宅復帰へ向けた高齢者への支援事例 37 〈事例検討1：発表〉 38, 39 〈事例検討2：演習〉通所介護を利用している高齢者への支援事例 40 〈事例検討2：発表〉 41, 42 〈事例検討3：演習〉認知症高齢者の在宅生活を支えるケアマネジメント 43 〈事例検討3：発表〉 44, 45 介護過程 総まとめ</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『介護過程』中央法規出版、 参考『介護過程』メヂカルフレンド社 介護福祉士養成テキスト 介護過程の展開建帛社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録 授業態度による総合評価</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習	授業の種類 演習	授業担当者 ①成田②加藤	実務経験有 ①老健清流苑で介護福祉士として勤務②特養えんじゅで介護福祉士として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護総合演習Ⅰでは、実習に必要な知識や技術、実習前・実習中・実習後というプロセスに沿った総合的な学習をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるための知識・技術と実習生としての基本事項について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護実習を円滑有効に行うことができるよう学内で学習を介護実践に活用できる総合的対応能力を習得する。 介護実習の意義と重要性について理解する。 介護実習を通じて学校内で学んだ知識・技術、態度を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 介護実習とは 介護実習の意義と目的、介護実習の内容 2 介護実習の達成課題と達成方法、介護実習及び介護総合演習の構造 3 介護実習についての準備 実習施設オリエンテーション 4 " 実習目標の設定 5 " 実習記録 6 介護技術の原則 7 介護技術チェックリスト 8 介護技術の留意点 9 介護過程のサイクル 対象者のニーズを知る 10 " アセスメント、情報の分析と特性の把握 11 " 介護計画の立案・実施 12 実習生としての基本事項 13 実習中の学習内容 実習記録からの学び 14 " カンファレンスからの学び 15 " 介護過程の展開を通じての学び、事例、介護過程を展開するときの動機 16 " 情報収集、情報の分析と特性把握 17 " 特性の文章化、介護の方向性を考える 18 " 介護計画を立案する、実施、振り返り 19 " 全人間的ケアについて、利用者、家族とのコミュニケーション 20 " 尊厳・人権、倫理についての理解、介護福祉士としての自立支援の役割 21 " チームケアとしての介護、介護職員によるチームワーク 22 " 他職種協働のあり方、事故防止とリスクマネジメント 23 実習後の学習内容 振り返りによる整理、実習記録、かかわり場面の再考 24 25 " 考察による自己覚知、プロセスレコード、自己の客観化 26 27 " かかわりの実践の意識化、介護過程 28 " 目標達成状況と次への課題、実習レポート 29 30 " 実習報告会</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』中央法規出版、 参考『介護総合演習』メヂカルフレンド社、 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録 授業態度による総合評価</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習	授業の種類 演習	授業担当者 ①成田②加藤	実務経験有 ①老健清流苑で介護福祉士として勤務②特養えんじゅで介護福祉士として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 2年 通年	必修
[授業の目的・ねらい] 介護総合演習Ⅰでは、実習に必要な知識や技術、実習前・実習中・実習後というプロセスに沿った総合的な学習をする。			
[授業全体の内容の概要] 実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるための知識・技術と実習生としての基本事項について学ぶ。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護実習を円滑有効に行うことができるよう学内で学習を介護実践に活用できる総合的対応能力を習得する。 介護実習の意義と重要性について理解する。 介護実習を通じて学校内で学んだ知識・技術、態度を理解する。			
[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』中央法規出版、 参考『介護総合演習』メヂカルフレンド社、 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録 授業態度による総合評価	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
前期			
1～5 在宅系サービス について			
6～12 障害児・者介護施設 身体障害者療護施設の概要、利用者の特徴、介護内容、留意点			
" 重症心身障害児施設の概要・利用者の特徴、介護内容、留意点			
" 知的障害者更生施設の概要・利用者の特徴、介護内容、留意点			
" 救護施設の概要と利用者の特徴、介護内容と介護上の留意点			
" 高齢者介護施設 ケアハウスの概要、入居者の特徴、サービス内容、介護上の留意点			
13 高齢者介護施設 小規模多機能型居宅介護事業所の概要、利用者の特徴、介護内容～介護上の留意点			
14 認知症対応型共同生活介護の概要と利用者の特徴、介護内容～介護上の留意点			
15 17 特別養護老人ホームの概要と入所者の特徴、介護内容～介護上の留意点			
18 19 介護老人保健施設の概要と利用者の特徴、介護内容～介護上の留意点			
後期			
20 介護実習の展開、事例研究の目的と意義・進め方			
21～24 事例研究のまとめ 研究レポートの作成① ②			
25～27 事例研究の発表① ②			
28～30 事例研究の例と解説① ②			
[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』中央法規出版、 参考『介護総合演習』メヂカルフレンド社、 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録 授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護実習Ⅰ	授業の種類 実習	授業担当者 ①成田②田中 ③鈴木(恵)	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務 ②太田総合病院に看護師として勤務 ③寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 15日間	時間数(単位数) 120 (15日×8時間=120時間)	配当学年・時期 1学年前期	必修
[授業の目的・ねらい] 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践、他職種との協働の実践、介護技術の確認を行う。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 施設・事業等の概要、法的根拠を理解する。 介護職員の業務内容を理解する。 コミュニケーション技術を活用して、利用者・家族とかかわり、利用者の個別性に気づく。 介護業務の実際を理解し、利用者の生活全般を理解する。 医務、リハビリテーション、厨房等関係部門を見学し、可能な範囲で参加する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習内容 (介護実習Ⅰ 15日間)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者に対しての挨拶や自分から話しかけることや、介助の見学を行うことなどを通して利用者の名前を覚え、障害の状態・程度、心理状態、必要な介助方法等を知り、個別性を把握する。 ・ 行事やクラブ活動の計画を知り参加することによって、利用者が楽しみにしている時間を共有する。そして利用者の気持ちを知る。また、雰囲気づくりや援助の実際についても学ぶ。 ・ 介護業務を見学し、指導を受け、可能な範囲で積極的に実践する。 ・ 利用者の1日の生活に基づく介護職員の仕事の内容・役割を知る。 ・ 医師・看護師の業務について理解する。 ・ 利用者のリハビリテーション時には、理学療法士、作業療法士の役割を理解すると共に、言葉をかけ、快く受けられるよう介助にあたる。 栄養士、調理師の業務を知り、連携方法について理解する。			
[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』 『生活支援技術Ⅰ～Ⅲ』 中央法規出版 参考、『介護総合演習』『介護の基本』 『生活支援技術』メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況(出席4/5以上)・実習記録・実習評価表・課題レポート等による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ (施設実習)		授業の種類 実習	授業担当者 ①成田②田中 ③鈴木 (恵)	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務 ②太田総合病院に看護師として勤務③ 寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 施設実習22日間	時間数(単位数) 施設実習 176時間 (22日×8時間=176時間)	配当学年・時期 2 学年後期	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>一つの実習施設で継続して実習を行い、利用者の介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正を一連の介護過程の全てを継続的に実践する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>根拠のある生活支援の実践を通し、その人らしさやニーズに気づき、適切な介護方法を学び、習得へ繋げる。</p> <p>個別介護計画の対象者を決定、必要な情報を収集し、利用者の全体像を明らかにする。介護過程に取り組み、個別介護計画の立案、実施・評価・修正を行う。</p> <p>(情報分析し、介護の方向性を見通し、介護目標を立てる。具体的な介護の計画を立て、できることから実施し、評価・考察し、必要に応じて修正する)</p> <p>実習を通して介護を行う者としての働く姿勢、職業倫理を身につけ、利用者の人権を守る基本的な姿勢を学ぶ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>実習内容介護実習Ⅰの内容に次の点を加える。</p> <p>(1) 利用者の個別ニーズへの理解を深め、根拠のある生活支援の実践に繋げる。</p> <p>(2) 介護過程に取り組み、対象者の情報収集、アセスメントからニーズを把握し、個別介護計画の立案・実施・評価・修正を行う。</p> <p>1) かかわった利用者から、個別介護の対象者を決定する。</p> <p>2) 対象差とのかかわりから生活上のニーズを捉え、利用者の自立支援につながる介護計画に繋げる</p> <p>3) 利用者の全体像を描き、利用者の持てる力(できること)、その人らしさを考察し、必要な介護方法の根拠を考え実践へ繋げる。</p> <p>○介護過程の課題の取り組み</p> <p>1 週目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の決定(指導者の了解を得る) <p>2・3 週目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助を通して、また、ケースファイルの閲覧、職員への質問等利用者の情報収集からアセスメントし、介護計画を立案する。 <p>4・5 週目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の許可を得て、計画を実施する。 ・評価・考察する。 ・必要に応じて修正をする。 <p>(3) 施設の介護サービス提供等の方針、並びに利用者個々の支援内容を理解するため、サービス担当者会議にできるだけ参加し、チームケアについて理解を深める。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『介護総合演習・介護実習』 『生活支援技術Ⅰ～Ⅲ』 中央法規出版</p> <p>参考、『介護総合演習』『介護の基本』</p> <p>『生活支援技術』メヂカルフレンド社</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席状況(出席4/5以上)・実習記録・実習評価表・課題レポート等による総合評価</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ（居宅実習）	授業の種類 実習	授業担当者 ①成田②田中 ③鈴木（恵）	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務②太田 総合病院に看護師として勤務③寿泉堂総合病 院に看護師として勤務
授業の回数 居宅実習3日間	居宅実習24時間 （3日×8時間=24時間）	配当学年・時期 2学年前期	必修
[授業の目的・ねらい] 訪問介護実習を行い、施設の特徴を知る。 また、利用者が、家族や友人、なじみのある関係の中で健全で自分らしい生活を営むことができるよう 援助することを目的とする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] それぞれの施設での基本的な態度を学び、利用者や家族へのかかわり、相談援助の必要性を理解する。 利用者の疾病や障害を理解し、日常生活支援の方法や残存機能を活用した自立支援の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者本位のサービスを心がけ、利用者が自立できるように、専門的な知識と技術を用いて介護する。 ・ あいさつ、自己紹介、礼儀正しい行動を実践する。 ・ 基本的なコミュニケーション技法で、利用者・家族とのかかわりを心がける。 ・ 訪問先の情報収集（簡潔に情報を収集するようメモを取る） ・ 健康管理に十分に気をつける。 ・ 職員の指示に従い行動する。 ・ 実習記録をつける。（介護目標、活動内容、目標に対して学んだこと等を記入） ・ 相手のペースに合わせる、ゆっくりと話す、聞く、寄り添うといった関わり方を学ぶ。 ・ 職員とどのようにして信頼関係を築き、なじみの関係となっているのかを知る。 			
[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』 『生活支援技術Ⅰ ～Ⅲ』 中央法規出版 参考、『介護総合演習』『介護の基本』 『生活支援技術』メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況（出席4/5以上）・実習記録・実習評価表・課題レ ポート等による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護実習 III	授業の種類 実習	授業担当者 ①成田②田中 ③鈴木（恵）	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務②太田総合病院に看護師として勤務③寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 17日間	時間数(単位数) 130 (17日×8時間=136時間)	配当学年・時期 2 学年前期	必修
[授業の目的・ねらい] 一つの実習施設で継続して実習行い、利用者の生活支援の理解のため、情報収集、アセスメントから生活上のニーズ把握の理解を深めるため継続的に実践する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習を通して、利用者の生活ニーズやその人らしさ等、個別性の必要性について理解を深める。夜勤など変則勤務帯の実習を体験することで、利用者の1日の生活リズムや状況を知ること、求められる生活支援を考えることができる。 レクリエーションの計画・実施・評価からレクリエーションの意義・目的の理解へ繋げる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
実習内容			
(1) 利用者の個別ニーズへの理解を深める。 (2) 生活場面で求められる生活支援の実践を通し、基本的な生活支援技術の理解に繋げる。 (3) 様々なニーズを抱える利用者とのかかわりがもて、ニーズに沿った介護方法など考えることができる。 (4) 夜勤など変則勤務帯の実習から利用者の生活状況や専門職の役割の理解へ繋げる。 (5) 介護過程に取り組み 1) かかわった利用者から、個別介護の対象者を決定する。 2) 対象者とのかかわりから生活上のニーズを知ることへ繋げる。 ○介護過程の課題の取り組み 1 週目 ・対象者の決定（指導者の了解を得る） 2・3 週目 ・対象者とのかかわりを通して、また、ケースファイルの閲覧、職員への質問等利用者の情報収集から得られた情報を整理していく。 4 週目 ・対象者の生活上のニーズを導きだし、生活支援の方向性を考えることに繋げる。 (6) レクリエーションの計画・実施・評価を行い、利用者の意向に沿ったレクリエーションを考えることができる。			
[使用テキスト・参考文献] 『介護総合演習・介護実習』 『生活支援技術Ⅰ～Ⅲ』 中央法規出版 参考、『介護総合演習』『介護の基本』 『生活支援技術』メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況(出席4/5以上)・実習記録・実習評価表・課題レポート等による総合評価	